

令和4年度 エイズ対策政策研究事業
厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書

HIV 医療と精神科医療の連携に関与する看護・福祉・心理職の技術共有と
ネットワーク構築に関する研究

研究分担者 仲倉 高広 京都ノートルダム女子大学講師

研究協力者

仙台医療センター地域医療連携室	井上 ひさ子
新潟大学医歯学総合病院	横尾 ゆかり
石川県立中央病院 患者総合支援センター	鳥越 彩英子・清水彩英子・川端まみ
名古屋医療センター 医療相談室	坂本 知謙
大阪医療センターHIV 地域医療支援室	岡本 学
広島大学病院 エイズ医療対策室	重信 英子 ・中島幸徳
九州医療センターAIDS/HIV 総合治療センター	首藤 美奈子・大里文誉
放送大学	大山 泰宏
追手門学院大学	荒木 浩子
京都桂病院	大澤 尚也
神戸女学院大学	市原 有希子
京都先端科学大学	小山 智朗
京都文教大学	清水 亜紀子
京都府立医科大学付属病院	高橋 紗也子
京都先端科学大学	田中 史子
帝塚山学院大学	中野 祐子
大阪樟蔭女子大学	野田 実希
京都文教大学	山崎 基嗣
関西国際大学	山本 喜晴

世界エイズデー・メモリアル・サービス運営有志

研究要旨 精神科との連携を促進するため MSW のためのチェック票作成，カウンセリングの効果評価を行うための項目選定，および HIV/AIDS に関するグリーフケアのあり方の検討を行った。現在のところ，調査途上にあるが，チェック票は，初学者や経験の浅い MSW にとってガイドとなり有効であると思われた。またカウンセリングの効果評価のためには，層的に理解するが重要であると考えられた。

A. 研究目的

研究Ⅰ：入院等他施設の精神科医療と HIV 医療の連携に際し，介在する看護・福祉・心理職の連携技術を明確にし，その共有やネットワークの構築を目指す。

研究Ⅱ：カウンセリングの効果評価を行うことに適している指標を抽出することを目的とする。

研究Ⅲ：HIV/AIDS による喪失体験に対し，集団・グループ・コミュニティレベルでの介入について，

世界エイズデー・メモリアル・サービスを通じ，その方法を検討することを目的とする。

B. 研究方法

研究Ⅰ：ACC およびブロック拠点病院勤務の福祉職を対象に，研究の趣旨を説明し，協力を求め，協力の同意が得られたメンバーを構成員とし，精神科連携についてミーティングを月に一度，オンラインにて開催し，会議を通じ，連携時に必要なチェック項目の選定を行う。また，任意の研修会で本チェック票を用いた事例検討を行い，参加者

からチェック票に加えたほうがよい項目など修正加筆を行う。

研究Ⅱ：中断事例の試行的カウンセリングの過程の分析、インタビュー面接時に実施した心理検査データの分析、および、面接過程と心理検査データとの総合的な分析をオンラインにてディスカッションにて行った。

研究Ⅲ：世界エイズデー・メモリアル・サービスの趣旨に賛同し、事前研修会が受講可能で、対面での開催の運営にかかわることに了承を得ることができた、研究協力者とともに、第36回日本エイズ学会学術集会にて第12回世界エイズデー・メモリアル・サービスを実施し、任意の参加者へのインタビュー調査を行う。

(倫理面への配慮)

オンラインによる開催のため、文書と口頭で、

1. 会議内で患者様の対応等を話題にする場合は、個人が特定される情報などは伏せ、必要最低限の情報で検討を行う。また、会議内で知り得た患者様の情報は守秘を厳守する。
2. 個人情報保護が徹底できるオンライン参加環境に留意する。
3. オンラインの会議の録画・録音を行わない。
4. 以上に記載している以外にも個人情報の取り扱いには十分配慮を行うこととした。

研究Ⅱに関しては京都市立病院、京都大学、および京都橋大学の倫理委員会の承認を得て実施している。

C. 研究結果

研究Ⅰ

同意が得られたブロック拠点病院のMSWは7施設10名であった。2時間のグループディスカッションを計12回行った。HIV/AIDS診療科と他院精神科との連携時のチェック項目の選定が終了した。大項目として、「依頼」、「医療保護入院」、「内服薬の確認」、「保健情報など」、「就労について」、「介護サービス」、「通院方法について」の7項目に整理され、それぞれにチェック項目を整理した。

大阪医療センター主催で行われたMSW対象の研修会にて本チェック票を用いた検討を行っていただいた結果、参加者より、初学者にはチ

ェック票があると連携を行うためのガイドになるなどの肯定的な感想を得ることができた。また医療保護入院に関する記載で法律上の正式な記載やその状況把握のためのチェック項目の追加の提案があった。グループで再度検討し、正式名に変更し、提案のあった項目は追加した。

現在、電子化せずに、紙ベースで作成し、次年度に試験的に運用し、最終的に完成を目指す。

研究Ⅱ

中断事例2事例について、それぞれ6時間のディスカッションを重ねた結果、質問紙法、文章完成法、投映描画法、面接での言動、および身体症状といったクライアントの多層的なメッセージ(表現)について、検討することとなった。多層的なメッセージは時に相反するようなものも含まれ、クライアントが意識・言語化している側面に以外に、表現されるもの(文章完成法や投映描画法、身体症状など)を層的に理解することができた。

研究Ⅲ

本年度は、有志による検討会で調査方法や調査内容など研究計画を検討するにとどまった。

D. 考察

研究Ⅰ：HIV/AIDS医療のなかで活躍しているMSWを中心に作成してきたが、今年度は試験的に本チェック票を用いて研修会を行い、参加者から意見を募ったことにより、精神科医療のなかで活躍するMSWの意見などを取り入れることができた。

次年度では、チェック票を用い、連携というソーシャルワーク活動をよりよく行うための面接のスキル、チェック票や項目を用いること意味や意義の整理し、マニュアルを作成し、任意の研修会でチェック票やマニュアルの利用しやすさを確認し、修正したのちに完成とする予定である。

研究Ⅱ：任意の医療施設での試行カウンセリング再開ができず、今年度は、調査を中断した事例を中心に検討を行い、調査を最後まで実施できた事例と適宜比較しつつ検討を行った結果、試行カウンセリングの開始初期段階で、クライアントが表面上(言語)示すメッセージとは違う層(時に相反するメッセージの場合もある)に気づき、面接を進めることで、クライアント

も意識的には気付かない、もしくは避けようとしているといった、多層的な理解をすることになり、カウンセリングのあり方などを見直すきっかけになるのではないかと考えられた。カウンセリングの効果評価のためには、層的に理解するが重要であると考えられる。

研究Ⅲ：体験談を通し、世界エイズデー・メモリアル・サービスで行われているグリーフケアの側面をとらえようと予備調査としての研究方法を検討してきたが、インタビュー内容などを検討することで本年度は研究計画を完成させることができなかった。

E. 結論

研究Ⅰ・研究Ⅱは、調査途上にあるが、研究Ⅰでは、初学者のMSWや経験の浅いMSWにとってチェック票は有効であると思われる。研究Ⅱでは、層的に理解することで、クライアントの全人的、力動的理解を深めたカウンセリングが実施できる可能性が見られた。またカウンセリングの効果評価のためには、層的に理解するが重要であると考えられた。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

荒木浩子，山崎基嗣，高橋紗也子，市原有希子，大澤尚也，清水垂紀子，田中史子，仲倉高広，野田実希，山本喜晴，小山智明，中野祐子，大山泰宏。HIV陽性者の理解にかかわる表現の多層性―描画を中心とした多面的指標を手掛かりに―。日本箱庭療法学会 第35回大会（鳴門）。2022年10月。

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし。